

今週のメニュー

■トピックス

◇VECの活動方針について

専務理事 小野裕章

■随想

◇知ってそうで知らない芸能界の話 ②

平 一暁

■トピックス

◇VECの活動方針について

専務理事 小野裕章

VEC が設立されたのは 1998 年 5 月。29 年目に突入したばかりで少し気が早いのですが創立 30 年を迎えるにあたって VEC 設立時の趣旨を振り返った上で現在の VEC の体制及び活動方針について述べさせていただきます。

ダイオキシン問題等、塩ビに対する不当なバッシングの嵐が吹き荒れていた 1998 年 1 月に塩ビ環境協会（VEC）が誕生しました。同年 5 月に塩化ビニル工業協会（1953 年設立当時の名称は塩化ビニール協会）と塩ビ環境協会が統合され塩ビ工業・環境協会（VEC）が設立されました（初代会長は故 金川千尋氏（当時、信越化学工業（株）社長））。

現在の会員会社は 7 社（（株）カネカ、京葉モノマー（株）、信越化学工業（株）、大洋塩ビ（株）、東ソー（株）、（株）トクヤマ、徳山積水工業（株））（五十音順）事業内容は以下のとおりです。

- (1) 塩ビ工業に関する環境、安全に係わる諸問題の調査・研究及びその成果の普及を通じ、塩ビに関する正しい理解を広める
- (2) 塩ビ工業に関する生産・技術・流通・消費等の調査・研究を行い、もって塩ビ工業の健全な発展に寄与する、ことを目的とする。

塩ビ環境協会が設立された際の金川会長の所信が現在まで VEC の活動の原点にもなっていますので一部抜粋して紹介させていただきます。

「世の中に存在するものは、我々の社会あるいは環境に対して何らかの貢献をしていると同時に、その社会・環境に負荷を与えています。従って、あるものの存在が社会的に許容されるのは、両者のバランスを適正に評価した上でのことでなければなりません。塩ビに対する昨今の批判的な動きは、このような意味で一方向的なものであり、著しくバランス感覚を欠いたものであると言わざるを得ません。こうした状況を改善し、塩ビが社会と共存していくためには、問題の解決へ向けての具体的な行動と、そうした行動に裏付けられた適正な情報を提供し続けていくことが必須条件であります。

塩ビ環境協会は今後、このような認識に立って、塩ビが社会的に求められている責任を果たすための諸活動、および情報提供活動を積極的に進めてまいります。」

諸先輩方のご活躍や国民各層のご理解により現在、日本国内では塩ビに対する誤解は払しょくされつつある一方、未だに昔の風評のイメージを持たれている方もいらっしゃいます。また、海外では意図的なのかは不明ですが、過去のすでに事実ではないとされている情報を持ち出して塩ビのイメージダウンを図っている動きも散見されます。

このような状況に鑑み、VEC は今後とも、科学的知見に基づく環境・安全面での情報発信はもちろんのこと、塩ビ製品が豊かな生活にいかに関与しているかという視点での各種イベントも積極的に行っていきたいと考えています。

個別の活動報告についてはメルマガのトピックスにおいて随時お伝えするとして、VEC 各ワーキンググループの基本的活動方針についてお示ししたいと思います。

まずは広報分野。ここでは VEC の収集・蓄積した情報を発信し、塩ビ関係者はもとより、塩ビのことをさほどご存じない方々も含め幅広く塩ビのことを正しく知っていただくことを目的に活動いたします。このため、Web サイトやメルマガ、SNS などを通じて塩ビに関するさまざまな情報を伝達するとともにエコプロ、PVC アワード、出前授業・出前講習会などにより広く一般の方々に塩ビの特性や利便性などを知っていただく活動を実施いたします。また、情報発信基盤となる Web サイトは重要ですのでよりわかりやすい、活用しやすい構成にしていきたいと考えています。

次に建材分野。塩ビは上下水道管、雨樋、サイディング（住宅の外壁に使用される板状の仕上材）、壁紙、床材、樹脂窓等さまざまな建材に用いられています。加工がしやすく寿命が長く、使用後はリサイクルできる塩ビ建材のよさを知っていただくための基礎的情報、すなわち耐久性、断熱性、防火性能、快適性などに関するデータ・情報を学識経験者をトップとした委員会で検討し論文にするとともにメルマガや記者会見で情報発信していきます。

次にリサイクル分野。かつて卵パックに塩ビが使用されていた頃は卵パックリサイクルも手掛けていましたが塩ビバッシングのあおりも受け塩ビ製卵パックは市場からなくなってしまいました。また、海外では塩ビはリサイクルできない素材といったデマ情報が流れていたりもします。その実、塩ビ管や壁紙、床材などのマテリアルリサイクルは積極的に行われています。今般のイラン情勢での市場の混乱のような事態を緩和するためにも原材料、製品の調達ルートの多元化に資するリサイクルの重要性は増してきていると思います。このため、現在リサイクルが行われていない他の塩ビ製品についても学識経験者や各団体、企業と連携して、また国・地方自治体の協力もいただきながら技術情報の蓄積に加え関係者間での調整などを通じて資源循環社会構築に向けた活動を行ってまいります。当面は北海道で行っている樹脂窓リサイクルの社会実装化、さらにケミカルリサイクルのための塩素循環の技術的検討を推進していきます。

次に海外分野。上述したように海外ではさまざまな情報が飛び交っています。インター

ネットやAIの普及に相まって過去の、すでに否定された情報でさえもそれが正しいかのように広まっていくきらいもあります。このような中、世界の塩ビ団体等の集まりである GVC (Global Vinyl Council)、アジア・大洋州の塩ビ団体等の集まりである APVN (Asia Pacific Vinyl Network) での活動を基軸として世界の塩ビ業界の方々とのネットワークを構築し、塩ビを取り巻く規制動向その他の各種情報を適宜適切に収集し、Web サイト、メルマガ等を通じて発信していきます。

最後に技術分野。VEC の活動の基礎となるのは科学的な根拠に基づいた各種情報を元に塩ビに関して正しく理解していただくための発信です。このため、塩ビの環境・安全などに関する諸情報を収集し、科学的な視点に照らしてその内容を検証して適宜情報発信していきけるような基盤づくりを行います。また、安全衛生に関する情報交換・勉強会を実施するとともに温室効果ガス排出に係る LCI (ライフサイクルインベントリー) の算出及び情報発信も行っていきます。

VEC 活動に引き続き皆様方のご支援・ご鞭撻をいただければ幸いです。

■ 随想

◇知ってそうで知らない芸能界の話 ②

平 一暁

前回はワタシの知り得る芸能界の話という事で、経験談も含めて「紅白歌合戦」についてアレコレ書かせていただきましたが、調子に乗って第二弾デス。今回はテレビの連続ドラマ、いわゆる「連ドラ」の話を綴らせて頂きますネ。まあ、今回も VEC さんとはかけ離れたネタですが、よろしかったらお付き合い下さい。

昭和から平成にかけて、連ドラは世間を席卷してブームを巻き起こしたり、結末は一体どうなるのか一週間頭の中を占領されてしまったり…笑 トレンディードラマ、月9、日曜劇場と、ドラマ枠の名称がそのまま一般用語になり、ドラマの種類も恋愛モノを筆頭に、学園モノ、刑事モノ、勧善懲悪の時代劇にサスペンスの2時間完結モノなど、地上波のあちこちのチャンネルで放送されていたものでした。



(AIによるイメージ画像)

今や時代は令和となり、テレビの地上波は押され気味。若い世代に限らず、情報は SNS や YouTube に目を向けがちだし、ドラマは Netflix (ネットフリックス) といった定額制動画配信サービスに押され気味…汗 地上波の連ドラ予算は、1話平均 3,000 万円と言われていますが、Netflix の場合は1話の平均予算が1億円とのこと。ちょっとケタが違いますよネ…笑 お金をふんだんにつぎ込めるのなら、それは映像のスケール感も違って来るし、俳優さんやスタッフ、脚本家、技術陣へのギャラも破格になるので、喜んで

オファーを受けますヨ。こんな状況を意識したのか、2023年に放送されて大いに話題になったTBSのドラマ「VIVANT」の予算は1話1億円とのウワサもありますがネ…。

あまりお金の話ばかりでは夢がないですネ…笑 失礼しました！まずは連ドラのキャストについて。連ドラって、キャストの俳優さんたちのスケジュールをおさえるのが大変なのです。この人を使いたい！と思わせる俳優さんにオファーが集中するのは自然な話。連ドラの場合、放送だけで1クール3か月じゃないですか。その撮影ですから、主役級は3～5か月のスケジュールを確保しないと。なので、主役やその相手役、3番手くらいまでは1年以上前から数か月単位のスケジュールをおさえるんですよ。どんなドラマか内容は決まっていなくても、来年の7～9月〇〇時からの枠はAさん主演の連ドラ！なんて感じで決まっていますヨ。NHKの大河ドラマなんて、2年前にドラマタイトルと内容、そして主役やメインキャストが発表されるじゃないですか。そして放送開始の半年以上前から1年半ほどかけて撮影します。そうしないとスケジュールが間に合わないんですヨ。その年の大河が終わる年末辺りには、次回大河の予告がかなり大々的に流れますよネ。相当先駆けてたっぷり撮影しておかないと、あの時点であんな予告は作れませんヨ…笑

当時、マネージャー間で関わらない方がいいヨ、とささやかれていたのが昼ドラ。大家族がテーマになった「天までとどけ」やドロドロの愛憎劇「牡丹と薔薇」、斎藤工の劇中で行う「壁ドン」も流行語に…笑 平日の昼間、主婦の昼食が終わったであろう13時台に毎日、15分とか30分の枠で放送されていました。放送期間は月単位。主役クラスの撮影時間は半端なかったそうで…汗 俳優さんの拘束時間が長くなれば、それに帯同するマネージャーも地獄。「撮影が押して、昨日は27時終わり。なのに今日は9時スタート。我々は7時インです。」通訳すると、昨日撮影が長引き夜中の3時終わりだったのに、今日、撮影は9時から。ウチは女優でメイクに時間を取られるので2時間前の7時にスタジオに入りました、という事。空き時間は4時間しかない！送迎も担当しているマネージャーだと、自分の家に帰る時間さえ無い激務。当時はこれを当然のごとくこなしていた時代でした。ドラマではないですがフジテレビの「SMAP×SMAP」（スマスマ）の収録なんて、SMAPのメンバーはいつも29時終わりだ、なんて聞いたことがありますヨ。今でもNHKでは朝ドラがありますが、アレも大変だと思います。最近、朝ドラは土曜日の放送を行わなくなりましたが、恐らくは俳優、スタッフの業務負荷を軽減させるための対策だったのだと思います。朝ドラも主役は大変ですが、抜擢されている訳ですし、脚光や評価を集める自身のチャンスの場合もありますからネ。若いという事もありますヨ、主役となったら若い女優さんたちはみなさんガンバりますヨ。

ワタシが実際に関わって、最も心に残るのは1997年7月放送のフジテレビ月9ドラマ「ビーチボーイズ」でした。反町隆史、竹野内豊のダブル主演で、近年いろいろあった広末涼子共演。このドラマの場合も放送の1年前には3人のスケジュールは押さえられ、企画が練られていました。当初、2人の教師と、とある学生が織り成す学園ドラマという設定で企画が進められていたそうです。ただチーフプロデューサー（CP）の亀山さん（既に同年1月から放送の「踊る大捜査線」を大ヒットさせていたCPで、後のフジテレビ社長）が、こんな企画ではつまらないと一蹴。急遽、ある海の家に2人の若者が転がり込む、というストーリーに書き換えられたそうです。で、問題になったのが海

の家の主人。アウトドアやサーフィン、モータースポーツや音楽に造詣が深く、海が似合う人、という事で突如白羽の矢が立ったのが、当時ワタシが担当マネージャーをしていたマイク眞木さんでした。7月放送開始のドラマなのに、出演オファーは3月の終わり頃。当時、ロングヘアを後ろで束ねていた髪型を角刈りにできるか？なんて制作陣の要請にゴネていたら、そのままでいい！とキャストが決定になり、4月にはロケに参加



していました。民宿「ダイヤモンドヘッド」があったのは、千葉県館山市の布良海岸。房総半島の先端デス。あの当時は木更津南までしか高速道路が整備されておらず、そこから先は1車線の一般道。夏場は途中各所に海水浴場があり渋滞しがちで、片道7～8時間かかった時も…汗 4月から撮影を開始していたんですヨ。ところが第一話がスペシャルで90分枠。監督は映像の撮れ高にかなり

拘ってなかなかカットにOKを出さず、そしたら規模の大きな台風が2度現地を直撃して、撮影スケジュールが飛びまくり…。何とか第一話を撮り終えたのが、7月7日。そう、第一話の放送日でした…汗 午後は編集作業が続けられ、無事午後9時からの放送に映像が間に合いました。結果、第二話以降、平日は館山などで終日ロケ、週末は渋谷で終日スタジオ収録、月曜は予備日でしたがそこも埋まってフル回転の撮って出し。コレを9月の最終回まで続けましたあ～泣 ADさんなどは、予備日以外は家に帰れず、スタジオや局に寝泊まりの日々だったように思います。実際、やっていた時は確かに大変でしたが、週を追うごとにドラマの評価が高まり、視聴率などの数字も上昇し、現場の一体感がより深まっていったあの雰囲気は、なかなか経験できるものではないなと当時でさえ感じていました。あの体験は大事にしたいですネ。今や反町さんも竹野内さんも、シブくて深みのあるいい俳優さんになりました。あの広末さんも当時は高校2年生。ロケ地での自身の撮影が終わると宿泊所の自室にこもって、大学入試の受験勉強をしていたんだよなあ…なんて、思い出しますネ。何がどうしてこうなったのか…、まあ、人生はいろいろありますよネエ……汗

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp